手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報
2023 年 3 月 30 日
第 48 号

手賀沼が海だったころ

文化財保護と地域の自然

植樹後13年の松ヶ崎城跡

１．２０１０年の植樹

松ヶ崎城跡の河津桜は2010 年２月から３月に植樹されたものが殆どですが、それから 13 年たち、河津桜は見事に成長しています。例年２月下旬から３月初旬頃の開花時期には、松ヶ崎城跡の桜を見物に多くの人々が城跡をたずねています。

2010 年の植樹については、まず２月 11 日に、柏ロータリークラブにより広葉樹 70 本（河津桜を含む）の植樹が行われました。　その際、ロータリークラブ関係者、ボーイスカウトなど 250 名ほどが参加しております。　さらに、同年２月 28 日には柏市と当会がタイアップして、河津桜 50 本の植樹を市民の「里親制度」により、セレモニーとともに行うことになっていましたが、雨天のため実際の植樹は３月１日に造園業者によって行われました。　この「里親制度」は、植樹サポーター制度であり、市民が一人２千円を出して、集団で苗木を購入し、買った苗木を植えて市に寄贈するというものでした。

＜2010 年２月 11 日　ロータリークラブの植樹での秋山・柏市長（当時）、向かって左は川上会長代行（当時・故人）＞

なお植樹当時の様子について、当会創立 15 周年記念会誌に掲載した記事を以下引用します。

「2010 年３月４日（木）付朝日新聞の東葛版に、当会が植樹樹木の里親を募集し、植樹した樹木を柏市に寄贈するために、柏市長に目録を贈呈した件についての記事がのりました。

松ヶ崎城跡の植樹と植樹された樹木の柏市への贈呈式について記載しています。

新聞の画像は、樹木の目録を秋山浩保・柏市長に贈呈する際に、目録の内容を川上会長代行が読み上げているところのものです。目録贈呈、記念花束贈呈は、樹木里親のご家族のお子さんたちがおこないました。

（略）柏市指定文化財松ヶ崎城跡を花と緑のある史跡とし市民の憩いの場とするために、当会で樹木の里親を募集したところ、257 名の方の応募がありました。

＜松ヶ崎城跡の桜は太く成長＞
※撮影：荒井会員

2010 年２月、まずロータリークラブによる植樹が、ボーイスカウトの協力のもとで行われ、桜やほかの樹木が植えられました。

樹木の里親制度による植

樹については、２月 28 日植樹祭の準備をしましたが、あいにく天候が悪く中止。　翌３月１日に造園業者の手によって河津桜を植樹。　３月３日柏市役所で柏市への樹木の贈呈式が行われ、里親代表から秋山市長へ目録と桜の枝を渡しました。　植えたばかりというのに４月には花をつけた桜もありおおよそ順調に生育しています」
※文中役職名などは当時のもの

２．植樹後 13 年たって

植樹後１３年たった松ヶ崎城跡は、以前とくらべ台地上にあがるための階段もリニューアルされ、全体的に歩きやすくなりました。

2010 年以降も 2011 年にカツラの木が台地中段に植樹され、翌年にも河津桜３本がその近くに植樹されました。　2010 年には、松ヶ崎城跡のシンボルツリーを植えようとしていたのですが、その１年後、2011 年3月 27 日に実現しました。　ちょうど東日本大震災の直後でした。　シンボルツリーとしては東北に多く自生するカツラの木を選びましたが、それも広葉樹で大きくなり、香りも良い等、植物に詳しい川上会長代行（当時・故人）の意見をもとに決めました。

2010 年に雨天で中止し、翌年も東日本大震災で出来なかった植樹祭は、2012 年3月 25 日に当会が主催、柏ロータリークラブ、ボーイスカウト東葛地区協議会、柏市ガールスカウト連絡協議会のご協力にて約 80 名のご参加で行なうことができました。

その後も何本か木の数も増えましたが、13 年間で植樹された木々は、台風などの被害にあった数本を除き、確実に成長しました。特に河津桜は植樹当時の幹は直径３ｃｍほどでしたが、今は 10 数ｃｍほどに太くなりました。　なかには直径 20ｃｍくらいの太い幹の桜もあります。　また、河津桜の一枝につく花数も増えています

〈松ヶ崎城跡北側堀底を行く〉

松ヶ崎城跡は 15 世紀末から 16 世紀初頭、関東で享徳の乱という戦乱があった戦国時代初期に築かれた城郭で、築城当時は台地上の城のある場所の樹木は伐採され、土塁や空堀がまさに土むき出しの状態になっていたと思います。　多少周辺に樹木があっても、おそらく松などが何本かあるくらいで、遠目にみれば樹木のまばらな台地上に土塁と堀があり、建造物としては木の門や柵などがあるくらいの城であったでしょう。　もし忠実に当時の姿を再現するなら、そのような形になるのですが、それよりは多少周辺に緑があり、憩うことのできる空間があった方が良いでしょう。

予期せぬことに今や「お城ブーム」となり、従来は一般的には地味な存在であった中世城郭にも少し日が当たるようになってきました。　千葉県の城郭では、佐倉城や本佐倉城、大多喜城がよく知られており、それらの城は 100 名城、続・100 名城となり、また地元も観光スポットとし

てきました。　それ以外の観光スポットでもなく、地元の人にも余り知られていないような城郭は、知る人ぞ知る存在だったのですが、最近はそのような場所を訪ねる人も増えてきています。

また御朱印ならぬ御城印といって、城跡を訪問した証としての記念カードのようなものも作られ、松ヶ崎城跡の場合は道の駅しょうなんで販売しています。

＜松ヶ崎城跡の河津桜＞
※撮影：荒井会員

松ヶ崎城跡は、北柏駅から歩いても 15 分ほど、竹の台のバス停からは約３分という場所にあり、山城のような高い場所でもないので、以前から訪ねやすい場所でした。　それで近隣だけでなく、東京や千葉県の別の地域、埼玉県などの方も松ヶ崎城跡まで見学に来ることがあります。

10 年ほど前に松ヶ崎城跡で写真を撮影していた男性に声をかけたところ、埼玉県のだいぶ遠い地域から来たと聞いて驚いたことがあります。　お城マニアで有名な落語家の春風亭昇太師匠も松ヶ崎城跡に来たことをブログで書いていました。

そういう研究熱心な方も、桜がきれいなので見に来たという方も、健康のため緑の台地を歩いてみようという方も、ぜひ松ヶ崎城跡現地の雰囲気に浸っていただければと思います。

３．松ヶ崎城跡を次世代につなぐために

このような城郭を歴史的遺産として見直す動きについては、前々号や前号でも書かれておりますが、千葉県内の最近の動きとしては、2022 年 8 月、佐倉市の臼井田宿内砦跡が佐倉市指定文化財に指定されたという件があります。

城跡の保存には、関係者のご理解、ご協力が必要であり、その第一歩がその城跡を知ることであろうと思います。　自分が住んでいる土地、育ってきた土地にあるものには、誰しも何らかの関心があると思います。　城跡も同様です。特に開発の進んだ首都圏で城跡が残っていること自体貴重です。　それが残ったのも、様々な条件が重なって残ったのであり、折角残った歴史的遺産をむざむざなくすのは勿体ないことです。

＜臼井田宿内砦跡の「タンポポ丘」の看板＞

色々な経緯を経て公園となった臼井田宿内砦跡は、佐倉市の臼井出身者で結成された BUMP OF CHICKEN というバンドの曲のモチーフとなり、城郭とは関係なしに BUMP OF CHICKEN の「タンポポ丘」として若い人中心に特別な場所として見られていました。　松ヶ崎城跡の場合は、特にそういう有名なエピソードなどはなく、中世手賀沼沿岸地域の歴史を知るための遺跡という位置づけで柏市指定文化財と

なりました。

しかし、一般に松ヶ崎城跡が知られているのは遺跡としてというよりは、河津桜の咲く公園としてかもしれません。　実際、観光スポットを紹介するHPにも、松ヶ崎城跡が出てきます。

＜松ヶ崎城跡見学会にて＞

全体的には、桜を見たり散歩に来たり、子供たちを遊ばせる場所というイメージを持たれている方が多いように思います。　勿論城郭自体についてのコメントもあり、中には「切岸」「腰郭」といった専門用語をふくんだコメントも見受けられます。

以前の斜面林の木々の間を抜けて台地をよじ登ると、うっそうとした杉林があり、その中に土塁や空堀があって、西側には虎口がひっそりと開いていた頃のことを思い出すと、今のように階段をのぼっていけば、歩きやすい道が出来ている状態になるとは考えられませんでした。　この城郭を今後どう残すかといえば、現状のまま、できるだけ自然な状態で残すということになろうかと思います。

遺構を説明するための看板は、2010 年頃からは城跡内部に入ると市が設置したものがあります。　しかし、長らく台地に面した場所にこの場所が城跡であることを示すものがありませんでした。

2006 年頃には斜面林に横断幕を張ったりしましたが、その幕では大雨、大風には耐えられませんでした。　そこで 2014 年にバス通りからも見えるように「松ヶ崎城跡」と書いた丈夫な看板を設置しました。　その後も植樹したことを示す小さな看板を二つ設置したりしましたが、通路の整備、草刈りなどは柏市のほうでやってくれました。

最近は台地中段端をとりまく木の柵の外側に、もう一つ転落防止用の柵を柏市が設置しました。

＜柏市が最近設置した柵＞

人工物として設置するのは、それくらいにして、あとは城の遺構を守りつつ、周辺の環境はできるだけ今の自然のままにし、城跡に来た人が憩えるようにすれば良いのではないかと思います。　環境整備などハード面と城跡のアピールというソフト面の両面から、城跡の保存に取り組んでいくべきなのですが、なかなかアピール不足で、市民の方からいまだに松ヶ崎城はどこにあるのかとか、あれが城跡とは知らなかったなどという声を聞くことがあります。　次世代にこの松ヶ崎城跡という歴史遺産をつなげていくために、われわれは松ヶ崎城跡を知っていただく、松ヶ崎城跡に来て、遺構や周辺を見ていただく活動を今後とも継続していきます。

柏市域の地名と歴史（前編）

森　伸之

１．はじめに　地名から分かるもの

千葉県柏市の地名について考える前に、そもそも地名から何が分かるかを振り返ってみたい。　一般に地名をその由来からカテゴリー分けるすると、①地形によるもの、②歴史的な制度によるもの、③土地区画や農業事情に関するもの、④その場所にあった寺社に関わるもの、⑤人名に関わるもの、⑥城館に関する地名などに分けられる。　以下、そのカテゴリごとの地名の概要について列記する。

① 地形による地名
地形や地質などを示す言葉を含む地名であり、一般に多い
・山に関する地名　・・・「山」「森」「岳」「峰」「根」「尾」のつく地名
・川や湖沼等の地名　・・・「川」「河」「沼」「岸」「江」「淵」のつく地名
※二つの川が出会うところは「落合」「二俣」「等々力」という
・傾斜地に関する地名　・・・「坂」「阪」「段」「峠」のつく地名
・谷に関する地名　・・・「谷」「沢」「窪」「迫（サコ）」「狭間（サマ）」のつく地名　など

② 歴史的な制度による地名･･･
・条坊制、条里制に関する地名　・・・「一条」「二条」「三条」など（後述）

③ 土地区画や農業事情に関する地名　・・・「五反田」「六反田」などは、その典型である
＜五反田＞東京都品川区、千葉県多古町・市原市、群馬県中之条町など
※水田の一区画が五反（約 5,000 ㎡：√5000≒70.7m四方）の場所だったのに由来という（東京）
「五斗蒔」という地名もあるが、それは種籾五斗で植付けのできる田を示しており、そういう田のあった場所（同様に「六斗蒔」などもある）

④その場所にあった寺社に関わる地名　・・・
「豪徳寺」「天王寺」「一宮」「祖師谷」など
東京の吉祥寺は、江戸時代初期に神田駿河台にあった吉祥寺という寺院が明暦の大火で焼け、寺院は文京区に移転、近隣住民は武蔵野に移住したが、かつての吉祥寺をなつかしんで移住先を「 吉祥寺」と命名したもの

⑤ 人名に関する地名　･･･
「右京塚」（鎌ヶ谷市）　当地の鈴木右京

と関連
「里見」（市原市）
里見氏にちなんで明治期に命名

⑥ 城館に関する地名　･･･
「城」「館」のつく地名、「根古谷」「根小屋」など

地名の読み方は、地元の正しい読み方に対し、非地元の読み方はややもすると歪みを生じさせる可能性がある。

例えば茨城県の茨城、大阪府の茨木は、どちらも正しくは「いばらき」であるが、誤読されがちである。

また、地元と他地域の人の地名のアクセントが違う場合がある。　テレビニュースなどで発せられる言葉のアクセントに違和感があることがあるが、それは我々が長年慣れ親しんだ言葉の発音とマスコミがいう「標準語」の発音が違うからである。　地元の人の発音と違うものを、マスコミ等が「標準語」と称するのは独善と言ってもいいだろう。

例えば、群馬県の前橋という地名の発音であるが、マスコミ等は「**ま**えばし」と最初の「ま」にアクセントを置くが、地元および近隣の人々は、「まえばし」とフラットに発音する。
栃木県の「足利」の場合、マスコミ等は「あしかが」とフラットに読むが、地元および近隣の人々は「あし**か**が」と「か」にアクセントを置く。

地名の読み方はアクセントも含めて、長くその土地に根付いた文化遺産とでもいうべきものであるから、地元の人の読み方が正しいのであるが、公共放送等であえて別の読み方をするのは文化の継承の意味であまり好ましいことではない。

それはともかく、地名というものは、その土地の地形や成り立ちをあらわすものが多い。　したがって、地名をみれば、その場所が本来どのような土地であったのか知ることができる場合がある（新地名など旧来の地名でないものを除く）。

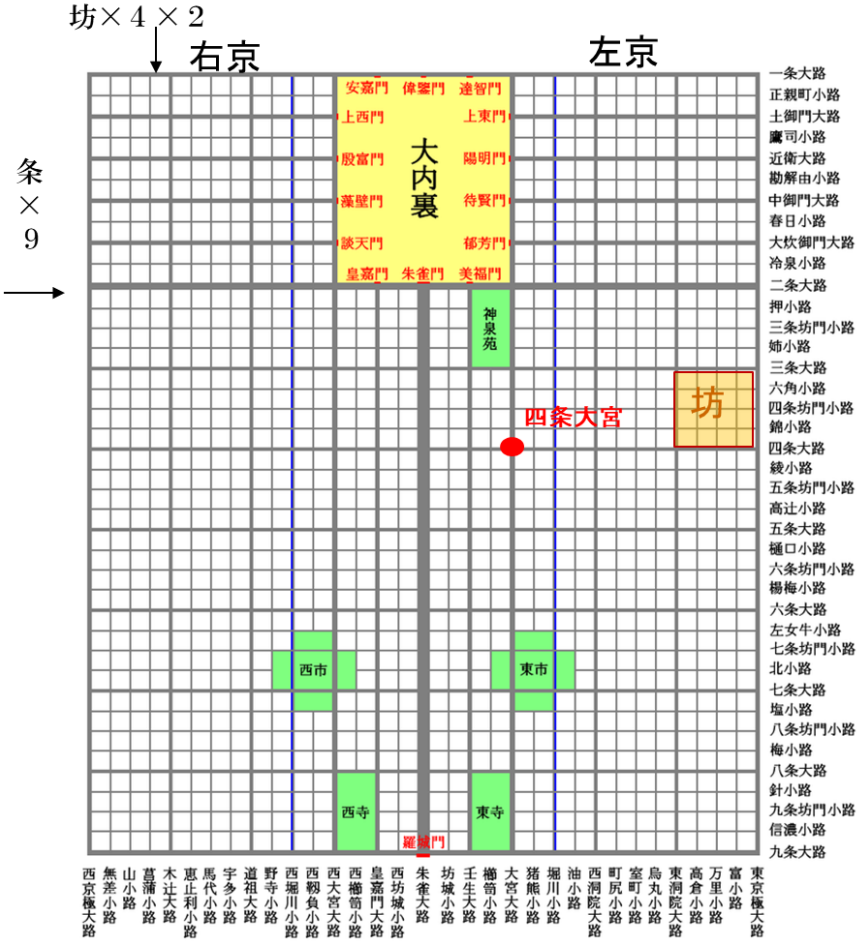
一方、地名には佳字や当て字がよく用いられ、本来の意味が分かりにくい場合がある。

地名のなかで①地形由来の地名の具体例としては、東京都世田谷区の「世田谷」という地名があげられる。　これは、「瀬田郷」の狭い谷地から来た地名であるが、瀬田は「瀬戸」のなまったもので、狭い出入口を意味し、狭い谷地も指している。

実際、世田谷区には、「谷」、「沢」のつく地名が多い。　「谷」では、粕谷、世田ヶ谷、祖師谷、船橋谷（かいと）、民部谷という地名がある。

また「沢」については「世田谷の七沢」といわれる、奥沢、深沢、北沢、馬引沢（現・駒沢）、野沢、吉沢、廻沢という地名がある。　ただ、「七沢」といっても正確にはどの沢かは定まっておらず、池沢（現・池尻）や松沢を入れる場合もある。

「谷」や「沢」の地名のいずれも谷地形（沢は細い川の流れる渓谷）に由来している。　また、隣接する渋谷区の渋谷も同様に渋谷川で形成された谷に由来するものである。



＜平安京の条坊制の概念図＞

②歴史的な制度による地名に関して、条坊制から来たものの典型は、京都の一条、二条といった地名である。

この京都（平安京）の一条、二条・・・は、都の区画配置法である条坊制の名残りである。

南北中央に朱雀大路を配し、南北の大路（坊）と東西の大路（条）を碁盤の目状に組み合わせたのであるが、京の通りの名のベースとなり、住所表示にも使われている。

朱雀大路に近い方から左京は東へ，右京は西へそれぞれ一坊～四坊と順に呼ぶ（大路に囲まれた一辺約550m四方の区画も「坊」と呼ぶ)。

一つの坊をさらにたてよこ各３本の小路(幅約 12 メートル)で 16 区分し，その一区画が町(ちょう)と呼ばれる。

平安京の町は約 120m 四方で、１坊＝４保＝16 町である。

平安京の条坊は左京・右京それぞれに九条と四坊＋北に半条分の北辺坊（ほくへんぼう）がついて、東西 4.5km、南北 5.2km の長方形に区画された（現在の京都市街より小さい)。

平安京の通りは、一条大路を北辺として、南は九条大路、東西は東が東京極大路、西は西京極大路で、その間に何本もの大路や小路

がある碁盤目状の構造になっている。　これはある地点を特定するのに便利で、例えば四条大路と大宮大路の交点は四条大宮で、すぐその場所が分かるように合理的である。

（付記）三哲を訪ねて

京都の子供が京の通りの名を覚えるために東西にはしる通りを北から順に歌ったのが「丸竹夷（まるたけえびす）」、南北の通りを東から順に歌ったのが「寺御幸（てらごこう）」というわらべ歌である。

「丸竹夷」の歌詞も何通りかあるが、以下のように歌われることが多い。

丸竹夷二押御池
姉三六角蛸錦
四綾仏高松万
五条
雪駄ちゃらちゃら魚の棚
六条　三哲とおりすぎ
七条こえれば　八　九条
十条　東寺でとどめさす

御所の北側にある一条通りは、畏れ多いとしたものか、はなから歌詞にない。

なお一般に歌われる「丸竹夷」で三哲は六条の次に出てくるが、実際の位置は七条の南で、八条に近い（三哲通りとは、今の塩小路のこと）。

この「三哲」は、京都の北の方からバスで京都駅に向かう途中、京都駅前のバス停の手前位のバス停の名前にもなっていて、20 代終わりから 30 代半ばまで仕事の関係で関西に住んでいて度々京都に来ていた筆者にとって、その地名の由来が長年の謎であった。

「三哲」というと三人の哲人のように思える。　儒教か何かに関係ある地名だろうかなどと思ったりした。

＜三哲のバス停＞

その後東京に転勤となり、10 年ほど後になってからであるが、神戸出張の機会を利用して　神戸から京都へ行き、「三哲」について調べることにした。

京都駅から歩いて近所の喫茶店に行き、そこのマスターに聞取りをしたところ、「以前三哲町という町名（といっても家が十数軒集まったような場所）があり、それから三哲通りとなったのではないか」とのことであった。　西本願寺が近く、その御用達の仏具店、和菓子店、油屋などが付近にあるので、その関係かもしれないとのことであったが、確かなことは分からない。

それで西本願寺周辺を歩き回り、梅が枝の手水鉢、西本願寺を見学したのだが、「三哲」地名の由来が分かるようなものはなかった。　諦めて帰りかけたところ、西本願寺近くの龍谷大学で偶然、地名研究会の講演会が開催されていた。この会で「三哲」地名について聞けるかもしれないと思い、急遽参加した。

講演自体は、直接関係ある話ではなかったが、地名研究会の人ならわかるかもしれないと思い、「三哲」について質問するも、「そんなこと、急に聞かれても、答えられますかいな」

というつれない返事であった。

悶々とした気分で、神戸へ戻り、ホテルで借りたキーボードが英字のみのPCでインターネット検索したところ、京菓子の「鼓月」のＨＰに「京ことば　『さんてつ』　相馬　大」という記事が掲載されているのに気付いた。

「『いま、三哲と呼ぶこと、この通り、大宮東入る町、北側に、渋川三哲と言ひし人の屋敷ありし故』(京町鑑)とある。三哲は、その屋敷を、立願寺（りゅうがんじ）という寺にした。古地図の立願寺をみると、三哲が、見える。」とあり、渋川三哲という人が住んでいたことから、三哲という地名が出来たと判明した。

わざわざ京都まで行き、何人かの人と会話したものの、梅が枝の手水鉢や西本願寺を見に行ったようなもので、所期の成果はなかったが、歴史散策の小旅行にはなったかもしれない。

「渋川三哲」とは江戸幕府の碁方、天文方をつとめた初代安井算哲の子の渋川春海であり、父の死後二世算哲となったが、すでに安井の碁方は初代の弟子算知が継いでいたため、天文方のみ継ぎ安井のちに保井算哲と名乗った人物である。

「三哲」地名は人名由来の地名であった。　それが分かるまで回り道をしたが、すぐに答えが分かるよりも、深く印象に残ったのである。

２．柏地名と柏市域の古い地名

船橋市西図書館にある「下総之国図」（江戸初期に成立）には、以下のような現在の柏地域の地名が載っている。

すなわち「太田」(大青田)、「大室」、「花野井」、「宿連寺」、「ふゼ」(布施)、「志こた」(篠籠田)、「高田」、「松ヶ崎」、「祢と」(根戸) 、「大井」、「ミノハ」(箕輪) 、「岩井」、「鷲のや」(鷲野谷)、「泉ノ口」、「片山」、「増尾」、「なと」(名戸ヶ谷)、「大嶋田」、「藤こゝろ」(藤心)、「坂いと」(逆井？)、「塚崎」、「高柳」、「藤ヶ谷」といった地名がみえる。

平安後期に成立した相馬御厨の一部として、柏市域は古くからの土地であり、例えば篠籠田は「志子田谷」という相馬御厨の南限を示す地名として、大治５年（1130）の鏑矢伊勢宮方記『下総権介平経繁寄進状写』という古文書に登場し、今とは文字表記は違うものの、古代からの地名である。

船橋市西図書館にある「下総之国図」は成立は江戸時代初期であるが、そこに表記されている地名はほぼ戦国期のものらしい。例えば船橋の小栗原城関連とされる「御舘」という地名は現在の船橋市本中山辺りの地名であるが、御舘村があったのは江戸時代初期までだったという。

「下総之国図」には、柏という地名は載っていない。　これは柏という地名が江戸時代初期にはなかったことを意味している。現在の柏市柏の柏地名が「下総之国図」にはなく、篠籠田や名戸ヶ谷といった周辺の地名は載っているということは、現在とは違い、柏市域で人が集落を形

成していたのは、柏市柏ではなく、その隣接する北側、あるいは南側の古くからの場所であった。

以下の表は、柏市域の集落ごとの村高推移であるが、集落の興隆の様子がみてとれる。

郡名	村名	下総之国図（江戸初期）の記載（〇）	村高（石高）			
			高城古下野守胤忠知行高附帳 慶安（1648～1652）頃	元禄郷帳 元禄15年（1702）A	天保郷帳 天保5年（1834）B	元禄→天保 伸び率 B/A
相馬	布施	〇	450	451	765	1.70
	根戸	〇	256	286	511	1.79
	宿連寺	〇	112	112	115	1.03
	手賀	〇	265	306	316	1.03
	藤ヶ谷	〇	285	270	408	1.51
	高柳	〇	105	326	415	1.27
葛飾	柏			301	457	1.52
	戸張	〇		195	246	1.26
	篠籠田	〇	93	149	305	2.05
	松ヶ崎	〇	59	234	278	1.19
	高田	〇	123	164	239	1.46
	大室	〇	370	279	460	1.65
	花野井	〇	228	228	439	1.93
	大青田	〇	370	363	655	1.80
	増尾	〇		316	627	1.98
	名戸ヶ谷	〇		392	427	1.09
	藤心	〇	135	259	381	1.47
	逆井	〇	175	205	382	1.86

＜柏市域の村落の村高推移＞

上の表は「下総之国図」の記載の有無、慶安頃のものとされる高城古下野守胤忠知行附帳記載の村高、元禄郷帳、天保郷帳の村高を一覧化したものである。

これを見ると、柏村は江戸初期にはなく、元禄郷帳では松ヶ崎や花野井といった中規模の村を上回る村高をもち、天保郷帳では元禄郷帳の時の 1.5 倍の村高となり、より豊かになっていった。

江戸期の各村落の成長は、一律的ではなかったようで、布施村、根戸村、篠籠田村、花野井村、増尾村、逆井村といった村落は天保郷帳の村高÷元禄郷帳の村高の比率は 1.7 倍から 2 倍ほどにもなり、特に布施村は 700 石を超える大きな村へと成長した。逆に宿連寺村、手賀村のように、江戸時代の前後期を通じて余り村高の変化しなかった村落もある。

そういう村落のなかで、柏村は元禄郷帳が書かれる前に忽然とあらわれ、中規模の村落として順調に成長していったのである。　柏村の成立とはどのようなものであったのかは、後ほど検討したい。

古代後期からの中世の柏市域はかなりの部分が相馬御厨の範囲であり、その地域を支配していた相馬氏関連の古文書には、箕輪、増尾、藤ヶ谷、高柳といった柏市域の地名がみられる。大きくは相馬郡が手賀沼沿岸の中世前期まで相馬氏が

支配した地域である。

『和名抄』（10 世紀、平安時代中期に作られた辞書）にある相馬郡の中の郷は、相馬郷、大井郷、古溝郷、布佐郷、意部郷、余戸郷の六郷である。　うち布佐郷は文字通り我孫子市布佐とされるが、残りは様々な場所に比定されている。うち大井郷は柏市大井という説があるほか、古溝郷も柏市布瀬ではないかと言われる。

ところで柏市域の東側の地域が面する手賀沼は、なぜ「手賀沼」というのであろうか。　広い沿岸の一地域である手賀という地名を関する沼である。　印旛沼は「印旛郡」の「印旛」を冠するが、手賀沼は一地域の地名に過ぎない「手賀」を冠するのである。

そして手賀沼の北にあたる茨城県にも、「手賀」という地名がある。　『沼南町史研究』第７号「所の呼び方について」（染谷勝彦氏論文）　によれば、「手賀」の「手」は「津」（つ）の転訛で、「津」がある「処」（か）という意味とのことである。　後の時代では「手賀郷」という表記も出てくるのだが、『和名抄』の相馬郡の記述には「手賀郷」はない。そもそも手賀沼の「手賀」は大治５年(1150）平経繁（千葉常重）が書状のなかで「手下水海」と使用したのが初出という。　「手賀」も「手下」も「てが」と読み、「賀」「下」の文字表記による差異はないと考えられる。　既に大治５年(1150）の段階で「手賀」という地域は沼の名前になるくらい代表的な地域としての評価をされていたと思われる。

３.「柏」地名の意味するもの

ところで、「柏」という地名は、何を意味するのだろうか。　「柏」を含む全国の地名を見てみると、以下のようになる。

柏・・・千葉県柏市柏、滋賀県高島市朽木柏（かせ）

柏原・・・奈良県御所市柏原（かしはら）、大阪府柏原市（かしわら）、滋賀県米原市柏原（かしわばら）、兵庫県丹波市柏原（かいばら）

柏崎・・・新潟県柏崎市、茨城県かすみがうら市柏崎

「柏」という文字を含む地名で樹木の柏を意味するというのは、奈良県御所市柏原の「柏原」と新潟県柏崎市の「柏崎」である。

ただ、地名の「柏」は必ずしも「かしわ」と読まない。　「柏」を「かし」と読む場合、「傾ぐ」で傾いた地形を意味する可能性があり、「かし」を「樫」と書いても同様である。

では柏市柏の場合はどうかといえば、確かな由来は不明である。　それでも柏の群生地という説と「河岸場」由来という２説ある。

ただ、明治 13 年（1880）の陸軍迅速測図を見る限り、柏市柏周辺は松が多く、柏の群生地はない模様である。　よって、消去法では柏は「河岸場」ということになる。

柏村は水戸街道（日光街道に付随し、江戸と水戸を結ぶ脇街道）が 17 世紀に開通・整備されたのに伴い成立した村と考えられる（手賀沼から荷揚した荷物の運搬に関わる）。

江戸時代の柏を描いた、文政 10 年(1827)の柏村上組麁絵図（そえず）を見ると、江戸後期の柏中心部

は、柏神社（天王社）以外は水戸街道沿いにまばらに人家があるほかは、周辺に畑などが広がっている。
柏神社の南西には野馬土手があり、野馬土手と水戸街道の交点には木戸がある。

野馬土手の向こう、現在の南柏までの一帯は小金牧の一部である上野牧になる。
　この柏村の成立には正保年間（1644～1647年）の水戸街道の付替が大いに関係しているようである。　当時、上野牧御林伐採と同時に水戸街道の経路を小金→塚崎新田→戸張村→呼塚新田 から付替え 、小金→向小金→柏→呼塚→根戸のルートになった。

- 水戸街道のルート変更により、現在の柏市中心部を水戸街道が通る
　　↓
- 手賀沼の河岸から揚がる物資輸送のため、新ルートで人馬の通行が始まる
　　↓
- 通行する人々のため、また物資輸送に関連して店や人家も街道沿いに出来る

　こうして、柏の集落ができたと推定される。（続く）

＜水戸街道の付替以前　～増尾、塚崎新田周辺を街道は通っていた＞

お知らせ

＜柏の城郭に関する歴史トークとコンサートイベントについて＞

6 月 18 日（日）14 時 30 分～16 時 30 分、標記イベントを京北ホールにて開催予定です。講師は千葉城郭保存活用会の小室裕一氏、弾き語りは coyomi 氏です。　ふるってご参加を。

＜2023 年度総会と第 1 回歴楽講座について＞

4 月 30 日（日）10 時 30 よりパレット柏多目的ホール A で総会を開催する予定です（ただし新型コロナの状況を考慮し、書面参加も可としようと思います）。　また同日 12 時 45 分より 15 時パレット柏ミーティングルーム A・B で 2023 年度第 1 回歴楽講座「ロケット戦闘機秋水と柏」を開催する予定です。　よろしくお願いします。

＜2023 年度 カシニワフェスタイベント＞

5 月 13 日（土）13 時よりカシニワフェスタの一環で、松ヶ崎城跡の見学会を行います。

＜『水辺の城』第 7 号発刊について＞

地域史中心にこの 7 月頃に発刊しようと思います。

手賀沼が海だったころ
手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報　第 48 号　2023.3.30
編集・発行人：森　伸之
年会費 2 千円　振込先：千葉銀行　柏支店　普通　口座番号３４６１４７